

2008年度 第86回 関西学生サッカーリーグ (後期・第1節)

9/6 (土) 鶴見緑地球技場

第1試合 姫獨大 vs 桃山大

今季から通年制となった、関西学生リーグの後期開幕戦は初の1部昇格ながら大健闘の6位姫獨大と7位桃山大との対戦。前期は初戦で対戦し桃山大が2-0で勝利している。序盤はFKからDF⑩古川将大のヘッドがバーを叩くなど桃山大がペースを握るが、素早いプレスで奪って早い攻めに出る姫獨大が盛り返し0-0で折り返す。後半も桃山大が優勢の展開から61分、姫獨大がMF⑦井平圭亮のパスをMF⑨光寛伸悟がDFの油断をついてシュートを決め均衡を破った。70分、さらに姫獨大に幸運な追加点。ロングフィードに桃山大GK①北井太陽が飛び出すがペナのラインぎりぎりでの処理を逡巡する間に、追いかけたFW⑩沈修輔が奪いガラ空きのゴールへ蹴り込んだ。追いこまれた桃山大だったが、82分、CKからのゴール前の混戦で⑤森一樹が決めると量みかけるように1分後に29 斉藤達也が決めてあっという間に同点。そして土壇場89分にも斉藤がゲットし10分足らずで試合を見事にひっくり返した。2得点1アシストの斉藤、交代登場からスピードドリブルで流れを変え、3点目のおぜん立てをした36 小倉慎太郎という1年生コンビが桃山大の救世主となった。

(文:サッカーライター 貞永 晃二)

姫獨大	2	$\left\{ \begin{array}{l} 0-0 \\ 2-3 \end{array} \right\}$	3	桃山大
得点(アシスト)者				得点(アシスト)者
61分 ⑨光寛(⑦井平)				82分 ⑤森
70分 ⑩沈(②田原)				(29 斉藤・⑥岡田)
				83分 29 斉藤(75 高橋)
				89分 29 斉藤(36 小倉)

第2試合 同大 vs 立命大

同大	1	$\left\{ \begin{array}{l} 1-0 \\ 0-0 \end{array} \right\}$	0	立命大
得点(アシスト)者				
37分 ⑨松田				

前期一時は首位に立ちながら尻すぼみの5位で終わった同大。一方、連勝できない波の多いサッカーで不本意な8位に終わった立命大。ともに後期の巻き返しのためにも伝統の同立戦は勝ちたいところ。前期は同大が1-0と先勝している。雨がパラつき、風も強い中のキックオフ。序盤は五分の展開から、立命大はFW⑩辻慶太のヘッド、同大はMF 29 徳丸敬紘のシュートと惜しいチャンスを決められない。25分を過ぎて同大がペースをつかむ。そして37分、FW⑨松田直樹のシュートがDFにクリアされると、再度松田が拾って左スミに蹴り込み同大が先制した。リードされた立命大は後半に入っても前線にうまくボールが入らず苦しい展開が続く。それでも65分を過ぎてようやくチャンスを作り始め、辻、⑦宮尾勇輝とチャンスを迎えるが同大はGK川原を中心にDFが粘り強い守備で対応しリードを維持する。しかし72分、同大はDF⑤永戸康士の一発退場で10人となると、引いた守備で逃げ切りを図ろうとする。そして迎えたロスタイム。立命大は二度ペナで選手が倒れるがいずれも判定はノーファウル。米田監督らの猛抗議も当然判定は変わらずタイムアップを迎えた。

(文:サッカーライター 貞永 晃二)

9/7 (日) 鶴見緑地球技場

第1試合 関西大 vs 京産大

試合前、古井監督と話をした際、「前線から必死にチェイスをするわけでもなく、後ろに下がるわけでもない。中盤でしっかりボールを奪う。」と守りの指針を語っていた。この試合、見事にその京産大の守りが冴えた。確かに関西大は、技術力の高さでスムーズにボールを運ぶのだが、前線につながらない。京産大が中盤に張った網と個々人の踏ん張りにボールロストが増える。京産大は、守りだけがしぶといわけではなかった。「絶対に相手に隙が出る。」(古井監督)の断言通り、関西大の守りの緩さを虎視眈々と狙っていた。16分にDF⑤吉川拓也が決めると、立て続けに22分にもFW⑩木村雄大がゲット。一気に試合の主導権までも握った。しかも、偶然ではなく狙い通りに。関西大は、ピッチをワイドに使い反撃を試みるが、なかなか結実しない。シュート数も多いものの、どちらかと言えば強引に放っているもので、崩し切れてはいなかった。32分にもFW⑩小笠原侑生が決めた京産大。関西大の反攻を1点でしのいで、強い勝ち方を見せた。

(文:サッカーライター ハヤシ ヒロヒサ)

関西大	1	$\left\{ \begin{array}{l} 0-3 \\ 1-0 \end{array} \right\}$	3	京産大
得点(アシスト)者				得点(アシスト)者
46分 ⑦阪本(②田中)				16分 ⑤吉川(⑥市川)
				22分 ⑩木村(②渡辺)
				32分 ⑩小笠原

第2試合 阪南大 vs 大教大

阪南大	1	$\left\{ \begin{array}{l} 0-0 \\ 1-0 \end{array} \right\}$	0	大教大
得点(アシスト)者				
72分 ③野田(⑧中濱・⑦小寺)				

少々雨ではサッカーは中断すらしなが、雷雨は別。前半39分過ぎ、激しい雨と雷で試合は中断。実に72分もの間推移が見守られ、全てのラインを引き直す作業から試合が再開された。もし、という程度の話だが、大教大に教育実習という事情がなければ、延期されていたかも知れない。そうすると阪南大の天皇杯にも影響が出ていたわけで、再開された事、加えるなら鶴見の水はけの良さに関係者が救われた。選手たちに話を聞いても、中断の影響は無かったと言う。スコアも0-0だったので、確かにそうだろう。しかし、ゲームの熱は若干奪われた感があった。時折、互いの集中力の欠如からビッグチャンスが生まれたが、ゴールは決まらない。そうしている間にゲームは完全な膠着状態に陥る。エース西田を欠く阪南大と、前がかりのサッカースタイルではない大教大のため、ボールは中盤で行き来する。不意に点が決まったのは、やはりセットプレー。72分のCK、阪南はMF⑦小寺優輝の蹴ったボールを、DF③野田紘史が決めて均衡を破る。ここからは、今季、数多の1-0(ウノゼロ)の試合を見せている阪南の本領。しっかり1点を死守し、圧巻の勝負強さを発揮した。

(文:サッカーライター ハヤシ ヒロヒサ)

## 第1試合 関学大 vs 大院大

インカレ出場権獲得、1部残留へー。それぞれの思いが交錯する中、戦いは始まった。序盤、一進一退の攻防を続ける両者。均衡を破ったのは、関学大だった。

前半、28分、右サイドに走りこんだFW 28 阿部浩之から出たパスをFW①桑原透記が決め、欲しかった先制点を挙げる。37分には阿部が追加点を奪い、2-0と関学リードで試合を折り返す。後半になっても関学の勢いは止まらない。またしても阿部、桑原のホットラインで3点目を決め、大院大に追撃の隙を与えない。さらに圧巻だったのは、4点目となった阿部のゴール。ゴール前でパスを受けた阿部は、フェイントで大院大のディフェンダーを翻弄。巧みな足技に観衆も魅了された。78分には桑原がPKを決め、ハットトリックを達成。終わってみれば5-0。統率の取れたDFラインの裏を狙った、関学大の1トップ、2シャドーの陣形が完全にはまった試合だった。

前期18得点を挙げていた大院大は攻撃陣も抑えられ、反撃の余地も与えてもらえなかった。一方の関学大は勝ち点3を積み上げ、インカレ出場へ向けた大きな一勝となった。

(文:フリーライター 久住 真穂)

関学大 5  $\left\{ \begin{array}{l} 2-0 \\ 3-0 \end{array} \right\}$  0 大院大

得点(アシスト)者

28分 ①桑原(28 阿部)

37分 28 阿部(④出口)

63分 ①桑原(28 阿部)

70分 28 阿部(⑤青戸)

78分 ①桑原

びわこ大 3  $\left\{ \begin{array}{l} 1-0 \\ 2-0 \end{array} \right\}$  0 近畿大

得点(アシスト)者

42分 ⑦小池(⑬平野)

54分 ⑬平野(⑩新中)

81分 ⑯山田(28 澤西)

## 第2試合 びわこ大 vs 近畿大

電光石火のゴール。びわこ大MF⑦小池遼が決めたゴールはそう呼ぶのにふさわしい。稲妻が光った瞬間、FW⑬平野甲斐からパスを受けた小池の放たれた球は、試合を決定付けるゴールとなった。

序盤は近畿大優位に試合が運ばれ、びわこ大は防戦一方の展開だった。近畿大は、MF⑦枝本雄一郎にボールを集め、幾度となく決定機を演出。しかし肝心のゴールが決まらない。「いい時間帯に入れられた」と近畿大DF⑤山口惇也主将が言うように雷はアクシデントにすぎず、前半終了間際の得点が試合の明暗を分けた。その後、雷雨で試合は約30分中断するも、集中力を切らさなかつたびわこ大が59分平野、81分には前線に上がっていたDF⑯山田尚幸が連動した動きを見せ、ゴール。3-0と前半の劣勢を忘れさせる快勝を収めた。

びわこ大はゲームキャプテンDF②船津徹也をはじめ数人の選手が「モチベーションをあげるために」と、前日に行われた開幕戦を観戦。開幕4連敗を喫した昨年の失敗を繰り返さないようにと、選手たちの強い気持ちが勝利を引き寄せたのだろう。

一方の近畿大にとっては、入替戦ギリギリのライン上に立ち、この敗戦は辛い結果となってしまった。次節までの2週間で気持ちを切り替え、建て直しを図りたいところだ。

(文:フリーライター 久住 真穂)

～第1節の風景～  
この笑顔が今節も見られるか・・・



9月6日(土) 鶴見緑地(姫獨大-桃山大)  
■ 撮影:フリーライター 久住 真穂 ■